

け が たいおう ケガの対応について



こどもは、頭が体に対して大きく、筋力や運動機能が未発達のため、転んで頭や口元を打ってケガをすることがあります。こどもによくあるケガの対応についてご紹介します。

きず すい傷

- 水道水で傷をしっかりと洗浄し、土や砂利などの汚れを落とす。
(消毒液は推奨されていません。)
 - 清潔なガーゼ等を傷口の上に当てて血が止まるまで押さえる。
 - 絆創膏やガーゼで傷を保護する。
(ワセリンを使うと湿潤環境を保てるだけでなく、ガーゼが傷につきにくくなります。)
- ＜こんな時は医療機関を受診しましょう＞
血が止まらない、傷口が深い、傷の範囲が広い、傷口の汚れが激しい、強い痛みや腫れがある、異物が残っている、何かが刺さっている、動物に噛まれた



傷口から出血や滲出液が出ている場合は、傷を覆う必要があるため、ケガの部分を清潔にして、傷を保護しましょう。



絆創膏は貼ったままにせず、1日1回は交換しましょう。

は くち け が 歯や口のケガ

- 口をゆすぎ、ケガをした部分を確認する。
(出血、腫れ、歯のぐらつき、歯の欠けや折れ、歯の抜け、痛みはないか)
 - 出血がある⇒ガーゼ等で血が止まるまで押さえる。
腫れや痛みがある⇒傷口を冷やす。
歯が抜けた、折れた⇒乾燥しないよう牛乳(※)に入れて、歯科を受診する。
(歯の根元の歯根膜があるうちなら戻せる可能性があります。)
- ※歯が折れたり、抜けたりしたときは、歯の根元を触れたり洗ったりせず、牛乳(乳アレルギーがない場合)や生理食塩水など保存液に入れて、できるだけ早く歯科を受診しましょう。
- 歯を打った場合、出血が止まっても、歯の根元など見えない場所が傷ついていることがありますので、心配なときは歯科を受診しましょう。



引用・参考文献：独立行政法人日本スポーツ振興センター 保育事故防止ハンドブック